

■東北地方太平洋沖地震 名取～仙台塩釜港（1分35秒）-映像解説-

<映像の概要>

映像は、ヘリコプターの前の席から撮影された、沖から押し寄せた津波が港を飲み込んでいく様子です。

<災害の概要>

- 平成23年（2011年）3月11日（金）、午後2時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が起きました。揺れの強さを示す「震度」はもっとも強かったところで7、地震の大きさを示す「マグニチュード」は9.0となりました。

これは、これまでに日本国内で観測された中で最大です。

この地震は、大津波や余震をともない、東北地方から関東地方にかけて、大規模で深刻な災害をもたらしました。

多くの人が犠牲になり、家や仕事を失い、また漁場や農地が打撃を受けました。

この地震により亡くなった人、行方が分からなくなった人は19,578人（消防庁公式サイト「被害報」より、平成23年11月30日現在）とされていますが、その9割以上は津波によるものです。

津波は北海道から沖縄まで全国の海岸で観測されました。特に岩手県、宮城県、福島県の沿岸部では多くの人が津波にのまれ、建物が流されるというたいへんな被害をもたらしました。

また、福島県双葉郡にある東京電力福島第一原子力発電所が、この地震および津波により大きな被害を受けました。

これにより重大な原子力事故が起き、放射性物質が大気中に放出されたため、被災地をはじめ、広い地域にわたって生活に影響をもたらしています。

さらに、関東・東北地方で地面の液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸を中心に大きな被害がありました。

いっぽうで防災や、被害を受けたあとの対策の大切さがあらためて見直されました。また、平成7年（1995年）の阪神大震災をきっかけに広まった「災害ボランティア」の活躍や、それを支援する動きが見られました。

- 宮城県名取市では、沿岸部に大きな津波が押し寄せたため、911の方が亡くなり、3,787の建物が全壊・半壊するなど、いちじるしい被害がありました（平成23年11月11日現在）。

名取市では9メートルを超える高さの津波が観測されました。仙台塩釜港も大きな被害を受け、港湾としての機能に打撃を受けました。

<映像の流れ>

映像は以下の流れのとおりです。

見出し	内容
上空からとらえた津波の様子 (00:00 ~01:35)	沖から押し寄せた津波が、陸地を越え、港を飲み込んでいきます。 川ぞいにも水があふれていき、広い範囲に被害をもたらしていく様子を見ることができます。

撮影日時：平成23年（2011年）3月11日 午後3時30分ごろ

撮影場所：名取～仙台塩釜港（空中撮影）

撮影者：MH906（仙台航空基地所属）

提供：海上保安庁